

# 若竹

第六十三号



愛媛県神道青年会 平成二十六年年度臨時総会

## 愛媛県神道青年会

事務局 〒791-8063

愛媛県松山市神田町 1-7

三津 厳島神社内

TEL 089-951-1471

FAX 089-951-2220

URL <http://www.ehimeshinsei.net/>

## 年頭の御挨拶

## 愛媛県神道青年会

会長 清家 貞文



明けましておめでとうございます。

先ず以て、平成二十七年の新春を迎え謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄を御祝い申し上げ、各御社頭の御隆昌、皆様方の御多幸を御祈り申し上げます。

さて、会長に就任して以来、一期二年の集大成の時を迎えようとしております。平成二十五年一月の臨時総会において会長職を仰せつかり、今期の目標として「会員出席率五割の実現」、「各事業への新規参加者五名以上」を掲げさせていただきました。初年度は交流を重きにおいた「会員交流親睦会」、男性神職同様、四十歳以下の女性

神職への御案内、二年目は勉強を中心とした「祭式研修会」を開催。そして通年事業の観月神楽の夕べや慰問神楽、新年研修会や三島由紀夫・森田必勝追悼慰霊祭の斎行、さらには四国地区事業として神道行法錬成会、そして中国四国姉妹地区協定調印式を含めた合同会は記憶に新しいところでございます。事業を開催する毎に会員の参加が増え、単位会の枠を越えて会員相互の研鑽や交流を深めていくことができたと考えております。

そのような中で今を迎えることができますのは、浅学非才な私を支えて戴きました諸先輩方。また役員会などを通じて各方面からご意見を頂戴し、決議したことを一丸となつて会務運営に御尽力頂いた役員各位。そして各種会合や事業等において、社務御多忙の中駆けつけて下さいました会員各位。本当に多くの皆様の支えや励ましの御蔭であると感謝を致しております。

昨年十月の臨時総会におきまして次期会長が新たに承認され、新年度より新たな体制により歩を刻むこととなりました。皆様方に於かれましては倍旧の御支援・御協力を賜りますよう、御願ひ申し上げる次第で

ございます。

今年は神道青年四国地区協議会が二十周年を迎え、四国各県で記念事業を行い、我が愛媛県でも記念式典・講演会を八月に行います。『四国は一つ』を合言葉に先輩方から脈々と受け継がれてきた『こころ』を次世代に継承するべく、嘉節を共に御祝いしようではありませんか。『現状維持は衰退なり』これからも共に参加し、研鑽を積んで参りたく存じます。

また今年は終戦七十年でもあります。この國を守るために散華された英霊たちの想いを現代の、特に若い世代に伝えるべく、斯界の尖兵としてさらに行動せねばならないと、胸に誓う新年でございます。

政局は昨年末の衆院選で与党は憲法改正に必要な三分の二の議席を獲得し、さらに国民の気運を高めるべく、関係各位の更なる御協力を御願ひ致します。

結びにあたり、御社頭の御隆昌と皆様方の御健勝を御祈り申し上げますと共に、今年一年が佳き御年となりますことを心から御祈念申し上げます。年頭の御挨拶とさせていただきます。

## 満場一致で次期会長に十亀雅史君(現副会長)を選出



清家会長による挨拶

まず、清家貞文会長より、今回の臨時総会開催の理由とその重要性について説明があった。そして、「慎重審議の上決めていただきたい」との言葉の後、次期会長に現副会長である十亀雅史君を

平成二十六年十月二十四日、伊豫豆比古命神社に於いて「愛媛県神道青年会平成二十六年年度臨時総会」が開催された。  
今回の臨時総会は、任期満了に伴う役員改選について審議するもので、二十四名が出席し、四十四名の委任状が集まった。

## 愛媛県神道青年会 平成二十六年年度臨時総会を開催



長曾我部前会長、十亀次期会長、清家現会長が揃い踏み

指名。「異議無し」の声が響く中、満場一致で選出された。  
大きな拍手をもって壇上に迎えられた十亀雅史次期会長は、決意表明の中で、今年四月に開催された「神道青年全国協議会創立六十五周年記念大会」での高円宮妃殿下のお言葉に触れながら、「神職の基本に立ち返り『祈り』というものを大切にし、実

行する二年間にしたい」と力強く宣言。「祈り」をテーマに、来期からの諸活動に反映させていく意向を表明した。

また、次期副会長には柳原永祥君(現副会長兼事務局長)、同じく善家祐二君(現理事)、副会長兼事務局長に田窪大朗君(現理事)が指名され、以下理事七名が選出された。監事には清家貞文現会長ならびに前副会長である田内逸知君が就任した。さらに、相談役に長曾我部信弥現監事が就任することとなった。

次期役員は次の通り。

- 【会長】 十亀 雅史(石鎚神社 権禰宜)
- 【副会長】 柳原 永祥(最島神社 禰宜)
- 【副会長】 善家 祐二(龍王神社 権禰宜)
- 【副会長兼事務局長】 田窪 大朗(吹揚神社 禰宜)
- 【理事】 後藤 正幸(高忍日賣神社 禰宜)
- 【理事】 武智 和剛(徳川神社 禰宜)
- 【理事】 矢野 忠臣(浦渡神社 禰宜)
- 【理事】 渡邊 平(伊豫豆比古命神社 権禰宜)
- 【理事】 那須 重昭(白王神社 禰宜)
- 【理事】 進藤 雄作(野坂神社 宮司)
- 【理事】 大西 元樹(三島神社 禰宜)
- 【監事】 清家 貞文(八幡神社 禰宜)
- 【監事】 田内 逸知(東雲神社 宮司)
- 《相談役》 長曾我部 信弥(伊豫豆比古命神社 禰宜)



## 宗像大社御造営見学 福岡研修旅行 実施報告



【報告者】  
川上神社 欄 宜 野口 秀文

平成二十六年五月二十日より二十一日にかけて、福岡県の宗像大社を始め九社を巡る研修旅行が実施されました。これは、ともすれば日々の奉仕の中に埋没し狭くなりがちな視野を広げ、神社のあり方について学ぶとともに、他県神青の同志と交流を深めるべく、今期卒業会員の慰労もかねて企画されたものです。八名の参加者が集まり、十九日夜に松山観光港を立ち小倉港へと渡りました。

翌朝、小倉に到着すると先ず御祖神社(足立山妙見宮)に参拝しました。宮司様は降り出した雨の中、境内を回りつつ、各所に溢れる工夫の跡を示されると共に、そこへ込められた気配りの心についてお話しくださいました。

次に参拝した篠崎八幡神社は極めて整然としており、玉砂利の白、社殿



御祖神社で正式参拝

### 参拝神社一覧

其の一



神楽殿に込められた工夫と気配り  
御祖神社(足立山妙見宮)  
(福岡県北九州市)  
神楽殿では結婚式も執り行われます。新婦が転倒しない様配慮された椅子、取り外ししやすい窓など細かな気配りと工夫に感銘を受けました。

や神門の朱、木々の緑がいかにも鮮やかで美しいことが印象的でした。

次は、今回の研修旅行の大きな目的の一つである宗像大社に参拝し、『平成ノ大造営』の最中にある辺津宮本殿及び拝殿を見学させていただきました。作業用の足場へ上がり、屋根葺きや丹塗り等の様子を間近に拝見しながら詳細なご説明をいただき、大変興味深く貴重な経験となりました。

午後には宮地嶽神社に参拝しました。本殿の黄金の屋根や日本一の大きさを誇るといふ大注連縄・太太鼓・大鈴の迫力に圧倒されました。



大造営中の宗像大社拝殿の前で

されました。

次は宇美八幡宮に参拝しました。こちらでは安産信仰が篤く、「子安の石」という慣わしがあります。安産祈願の際に子安の石を借りて帰り、成就の後に子

其の二



社殿・神門の朱が美しい  
篠崎八幡神社(福岡県北九州市)  
あいにくの雨でしたが、掃き清められた境内は、社殿、神門の朱色を一際美しく見せていました。

其の三



「平成ノ大造営中」の本殿を見学  
宗像大社(福岡県宗像市)  
足場を上がりお屋根のすぐ前まで案内頂き、木の薄板を重ねる屋根の葺き方「こけら葺き」等を特別に間近で見せていただきました。

其の四



まばゆい黄金色のチタン屋根  
宮地嶽神社(福岡県福津市)  
同社本殿の屋根はチタン製で黄金色。同社の巨石古墳に黄金製品が多数出土したことにちなんでいるそうです。まばゆさに目を見張りました。

其の五



境内にカフェ併設。その心を学ぶ  
宇美八幡宮(福岡県糟屋郡)  
神社運営のカフェでは、神職巫女さんが交代で給仕されています。参拝者に境内でゆっくりしてもらおうと共に、接し方を学ぶためでもあります。





福岡県神道青年会との懇親会



挨拶をする清家会長

風情を湛えるその様子は、同じ神社でも場所柄や役割によつ

次は福岡県から山口県下関へ渡り亀山八幡宮に参拝しました。日本最大の御影石製の鳥居越しに海に臨み、開かれた堂々たる

翌二十一日の朝には櫛田神社に参拝しました。常設展示されている博多祇園山笠の飾り山笠は聳やかで勇壮にして華麗です。宮司様からは、その昔宮司に就任されたばかりの頃、地元の方々に会って話を聞き、教えを受けた経験談をお話しいただきました。どのような姿勢で地域の方々と接すれば良いのか、そしてそれをどのようにに生かしていくのか学ぶことができました。

供の名を記した別の石を併せて奉納するというもので、境内には名前が記された拳大の石が賑やかに積み上げられていました。夜には福岡県神道青年会の諸氏との懇親会が開かれ、膝を交えて酒を酌み交わし、大いに盛り上がりました。

て色々な応じさがあるものと感じさせてくれます。次は同市内に鎮座する貴布禰神社に参拝し、社務所にて宮司様自らが包丁を握られる料理屋「きふね」にて昼食をいただきました。普段は夜だけとのことですが特別に昼食を準備していただき、真心のこもった美味しい料理を堪能いたしました。

さらに、貴布禰神社宮司様の強いご推薦で、高杉晋作の発議による殉国の志士を祀る我が国最初の招魂社である櫻山神社に参拝しました。同社には、指導者吉田松陰から名もなき奇兵隊隊員に至る迄が等しく祀られています。宮司様のお声がけがなかったら知ることの出来なかったこの境内に立ち、ご縁の大切さを知りました。

以上九社の参拝を以て本研修は結ばれ、私たちは同日夜、船路にて愛媛に帰り着きました。今回お会いした方々はどなたも温かく親身に迎えてくださり、教示をし、課題をくださいました。今後は、学んだことを生かし、神社運営や神職としての行いに役立てていこうと思います。



かつて柳原副会長が奉職していた櫛田神社様では、お忙しい中隔々までご案内いただいた【写真は博多織の狩衣】。



其の九

### 霊標並ぶ我が国最初の招魂社

櫻山神社(山口県下関市)  
境内に立ち並ぶ霊標は、吉田松陰のみ一段高い台が数かありますが、他は高さも大きさも同じです。その精神に心打たれました。



其の八

### 夜になると社務所が割烹に

貴布禰神社(山口県下関市)  
宮司様は料理人でもあり、夜になると社務所は、割烹「きふね」になります。神社の一つのあり方、料理を軸とした教化のかたちを学ばせていただきました。



其の七

### 日本最大の御影石製の鳥居

亀山八幡宮(山口県下関市)  
下関の市街地の小高い丘に鎮座するお社ですが、かつては島だったということに驚きました。神社正面の鳥居は高さ12.7m。御影石としては日本最大です。



其の六

### 博多祇園山笠が常設展示

櫛田神社(福岡市博多区)  
七〇年を超える伝統をもつ博多祇園山笠は、同社への奉納行事の一つで、その熱狂ぶりは山笠があるけん、博多だ！と言われるほど。

【宗像大社御造営見学 福岡研修旅行 参加者】

清家 貞文、十亀 雅史、柳原 永祥、田窪 大朗、常磐井 守道、善家 祐二、三輪田 尋道、野口 秀文

# 広島青年神職会交流

## 石鎚登拝



【報告者】

愛媛県神道青年会 副会長

石鎚神社

権欄宜

十亀

雅史

七月二十三・二十四日、広島県青年神職会十三名をお迎えし、石鎚山登拝研修が行われました。県内は夏祭りなど忙しい時期であり、当会からは会長以下四名の参加となりました。

今回の交流会は、広島青神の事業である第十四回青神塾の石鎚山登拝研修を目的に開催されたことに併せ、愛媛からも研修に参加させていただき合同研修となりました。



本社にて正式参拝



講師(先達)は  
石鎚神社権宜十  
亀博行(当会元  
会長)先輩にお

願いし、石鎚  
信仰を詳しく  
講義いた

だきながら、  
頂上を目指  
しました。

まず、本  
社にて正式  
参拝・記念  
撮影・開講

式を行い、まずは中宮成就社へむかいました。成就社では登拝安全のお祓いを受け、いざ頂上へ。

先達の「なんまいだ」の掛け声で、普段の運動不足で体中の筋肉が悲鳴を上げながらでしたが、試しの鎖・一・二・三の鎖の



十亀先輩を先頭に気合いを入れていざ!

合計四本の鎖

を無事登り

切り、石鎚の

教えでありま

す「修祓・修

行・鎮魂」を

体で感じ、頂

上社へ感謝の

祈りを捧げ、

頂上山荘に宿

泊し懇親を

深めました。

翌日は朝拝後に希望

者のみ西日本最高峰

一九八二mの天狗嶽

にも挑戦し、見事に

登頂することが出来

ました。

参加者全員怪我も

なく下山し、閉講式

では十亀宮司様より

お言葉を頂戴し、皆晴々とした表情で研修

を終えました。

しまなみ十周年を記念して始まった広島青神との交流会は、来年は広島県を舞台に開催されます。多くの会員と共に交流を深めたいと思っておりますので、是非ご参加下さい。



天狗嶽でバシャリ!



頂上に着いた皆の顔は晴れ晴れ

他県の同志と交流を深め仲間の輪を広げよう



## 神道青年四国地区協議会 第二十回定例総会・研修会



【報告者】  
愛媛県神道青年会 理事  
高忍日賣神社  
榎 宜 後藤 正幸

平成二十六年八月七日・八日の二日間、わたり、香川県神道青年会主管のもと、「神道青年四国地区協議会第二十回定例総会・研修会」が、香川県・高松国際ホテルにて開催されました。当会からは、清家会長をはじめ七名が参加致しました。

一日目は総会・研修会に先立ち、石清尾八幡神社(高松市宮脇町鎮座)に集合、正式参拝を致しました。

その後、会場となるホテルへ移動。開講式並びに定例総会が開かれ、議事は円滑に進行され



全員で記念撮影



茂木貞純先生



吉田重幸先生

ました。

続いて、「『瑞穂の国』〜米作りと祭祀〜」と題して研修会が開かれました。一日目は國學院大學教授・茂木貞純先生より「瑞穂の国」稲作は神事である」と題し講演を賜りました。神話には稲作の重要性と豊作への強い祈りが込められていること、宮中の新嘗祭、神宮の式年遷宮をはじめとする神事が伝えている稲作と神事の強い関わり、さらに稲作と我々の日常生活が深く結びついていることを詳しくお話いただきました。そして、稲作という我が国にとつての原点を忘れることなく、未来へつなげて行かねばならないことを強調されていました。

一日目の講演後は懇親会があり、他県の会員との懇親を深めました。

二日目は元香川大学教授、藤尾八幡神社宮司・吉田重幸先生より「みどりと生活」と題し講演を賜りました。



充実の2日間となった

物理的效果・心理的效果・利用効果があることをご紹介いただき、木はむやみに切ってはならず、可能な限り自然な姿のままにしておくべきであると話されていました。

研修終了後には閉講式があり、参加者に修了證が授与され、次期当番県の当会・清家会長より挨拶がありました。

来年、神道青年四国地区協議会は設立二十周年を迎え、総会並びに記念式典は愛媛県にて開催される予定です。おもてなしの心をもって皆様をお迎えしたいと思えます。また、四国地区の他県の会員とも懇親を深められる良い機会ですので、来年の記念式典には愛媛神青会員の皆様はぜひご参加いただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

平成27年度の地区協総会・設立20周年記念式典は8月11日(火)、愛媛での開催です!





まずは基本作法をしっかりとおさらい(中予)

地域の方が参加し易いように、開催を東予・中予・南予と三回に分け、時間帯も兼職者も比較的参加し易い土日の午後六時～午後九時の三時間と致しました。参加資格者は、

当会では、平成二十六年七月から八月にかけて、昨年度の会員交流親睦会に引き続き、本年度は祭式研修会を開催し、白衣白袴に身を正し実践研修を持って研鑽を積み、祭式の基本を見直す勉強会を行いました。神社庁主催の祭式研修会も毎年開催されておりですが、一日研修であり、参加したくとも仕事の都合で参加できない兼職の青年会員の声にこたえて、青年会独自の祭式研修会を開催させていただきました。各



【報告者】  
愛媛県神道青年会 理事  
龍王神社  
権欄宜 善家 祐二

## 愛媛県神道青年会主催 研修会(祭式)



眞鍋 豊孝先生より著装について学ぶ

各会場に愛媛県神社庁祭式講師である吉田充邦先生・眞鍋豊孝先生、祭式助教である十亀博行先生に講師を務め頂き、「基本作法・修祓行事・献饌撤饌・狩衣の著装等」を見直し勉強する機会を設けました所、第一回目の中予開催は、伊豫豆比古神社にて十八名、二回目の東予開催では、石鎚神社にて十四名、そして三回目の南予開催では、三島

愛媛県神道青年会会員(四十歳以下の愛媛県女子神職会会員含む)として、半日の修了證も交付を致しました。

7月13日 18名参加!



金刀比羅神社  
権欄宜 大谷 直士

中予

兼職の私には非常に参加しやすい日程

催日時は日曜の夕方という、普段兼職の私には非常に参加しやすい日程でした。研修内容についても基本作法と狩衣の著装、および修祓作法といった、普段の奉仕の中でも最も基本的な部分であったかもしれませんが、普段白衣袴に袖を通す機会もあまり無い私にはその「基本」という内容が非常に有益でした。

講師の眞鍋先生に指導を頂きながら、基本作法や著装の実技を行いました。普段崩れてしまいがちなそれらの正しい作法を学び、非常に密度の高い時間を過ごすことができました。今回学んだことは日頃の奉仕の中で常に意識してこそ本当に身に付くと思しますので、今後とも精進してまいります。



東予では、眞鍋先生、十亀 博行先生にご指導いただいた

神社にて十七名が参加していただきました。各会場共に多くの会員が集まり、研鑽を積むと同時に、会員同士の繋がりを深める良い機会を持つことが出来ました。昨年度の会員交流親睦会より青年会活動に参加して下さる会員も増えて参りました。そして、今研修にて、また新たな会員の参加もあり、とてもうれしく感じております。執行部として会員参加増強に何をするべきかと役員会にて議論を重ねた結果、先ず

【東予】大谷 直士、宇都宮 宗平、熊本 充良(皇學館大学生)、後藤 雅彦、後藤 正幸、清家 貞文、善家 祐二、十亀 雅史、西村 英二郎、堀川 翔央、柳原 永祥、矢野 忠臣、山崎 浩司、和氣 孝雄 【南予】大西 元樹、小笠原 義直、後藤 雅彦、後藤 正幸、進藤 雄作、清家 康介、清家 貞文、善家 祐二、十亀 雅史、田窪 大朗、武智 和剛、武智 佳子、常磐井 守道、那須 重昭、三輪田 尋道、薬師神 敬篤、山崎 浩司

8月17日 14名参加!

東予

三嶋神社  
禰宜 和氣 孝雄

私は、宇和支部の三嶋神社にて奉仕しておりますが、仕事上西条市に住んでおります。今回、東予地区の祭式研修会が石鎚神社にて開催されることになり、私にとつ

### 自己流になった作法を見直す絶好の機会

では東予地区の神道青年会員との交流と祭式基本作法の復習ができる絶好の機会でしたので、参加させていただきました。約十年ぶりに基本作法を習い、自己流になっていた作法を見直すことができました。また、実奉仕に近い一人奉仕の修祓作法を習うことができ、有意義な研修会でありました。学んだことを忘れることなく是非今後の奉仕に生かして参りたいと思います。



一人奉仕での修祓の作法を学ぶ(東予)

は役員から会員へ接することを心掛けて参りました。一つ例に挙げますと、青年会活動・情報を郵便やホームページ案内で済ませるのではなく、全会員へ直接伝えることを徹底致しました。役員間の中で会員連絡担当網を作り、行事毎に会員へ電話もしくは会って参加を促します。そうすることにより、何度か連絡を繰り返す内にお互いに打ち解けて青年会へ目を向けて下さる会員が増えて参りました。



南予での吉田充邦先生による講義

今後、会員向けの企画を開催して参りますので、皆様のご参加をお待ちしております。最後になりましたが、会員研修会(祭式)企画をご理解頂きご協力賜りました吉田先生・眞鍋先生・十亀先生に衷心より感謝申し上げます。



女子の作法も丁寧に指導してくださった

8月30日 17名参加!

南予

三嶋神社  
禰宜 大西 元樹

西予市宇和町の三嶋神社にて、同神社宮司、また神社庁祭式講師の吉田充邦先生ご指導のもと南予地区祭式研修会が開催されました。当日は座学として祭員の正しい読み方の確認や、祭式

### 基本作法から祭式の雑則まで学ぶ充実の時間

の雑則、申合事項等についての御講義をいただき、続いて実技として基本作法、また大祭式における各所役の作法をご指導いただき、約三時間という短い時間の中、とても濃い内容の研修となりました。また研修後には、吉田先生のご厚意により同会場にて懇親会を開催し、会員間の交流を深めました。とても充実した時間を過ごすことが出来ました。この場をお借りし、吉田先生に改めて御礼申し上げます。

### 座学の時間

これは南予での祭式研修会において吉田先生より出題された問題の一部である。  
(一)は読みを、(二)以降は○か×かで解答してみよう。

(一) 聲折 警蹕 陪膳 逆行

(二) 神饌の魚に関し海の魚は御神前に腹を向け川の魚は背を御神前に向ける

(三) 手水を行う順序は斎主である宮司が最初に参り祭員はそのあと行うのが本義である

(四) 神饌献撤にあたり総代の介助を得ても良い

答えは15P最下部へ!

### 祭式研修会参加者 ※ 五十音順

【中予】大谷 直士、大西 元樹、神岡 史郎、後藤 雅彦、後藤 正幸、進藤 雄作、善家 祐二、十亀 雅史、田内 逸知、武智 和剛、武智 佳子、玉井 正祥、常磐井 守道、野口 秀文、御稿 裕史、三輪田 純、柳原 永祥、渡邊 平



平成二十六年度 神道青年全国協議会

夏期セミナー

主題 これからの英霊顕彰



【報告者】

愛媛県神道青年会 副会長  
伊豫豆比古命神社  
権欄宜 後藤 雅彦

平成二十六年八月二十一日～二十二日、神社本庁に於いて全国から一三〇名の会員が参集し、開催されました。

第一講では、硫黄島の最高司令官であった栗林中将を祖父に持つ衆議院議員・総務大臣の新藤 義孝先生より『硫黄島から考える英霊顕彰について』と題し講演を賜りました。国家観や戦争史観を述べられた上で、硫黄島での遺骨収集を安倍首相とともに早速に進め、領土・領海・憲法改正の諸問題を広く国民に認識させ、平和的な解決を語りたいたと述べられました。

第二講では、大阪国際大学講師・戦記作家の久野 潤先生より『後世に伝へるべき先人たちの戦ひ―慰霊顕彰と艦内神社』と題し講演を賜りました。まず、我が国の国防とは、建国以来『海を守る』『海から守る』

ということが意識されていること等について述べられました。さらに、戦艦の艦内には艦名からとった神社(戦艦大和には大和神社)が祀られており、御祭神は旧国名の一宮から勧請されていたことを解説いただきました。全国各地の神社には戦艦の形見といえる砲台・砲弾・甲板の一部等が奉納されていることなどを紹介し、艦船の慰霊顕彰が必要だと述べられました。

第三講では、靖國神社を正式参拝させて頂き、参集殿に於いて権宮司の山口建史先生より『靖國神社の本質』と題し講演を賜りました。靖國神社の創建とは、明治天皇の勅命ではあったが、当時の民意の昂揚があったため造られたことを解説いただきました。さらに、英霊とは、天皇を中心とする国家のために尊い生命を捧げられた人との定義があることや、全国戦没者追悼式典では、靖國神社の御英霊だけでなく、民間の戦没者も含まれており、八月十五日の午後十二時には全ての国民が全ての戦没者に対して黙祷を捧げるべきであることを述べられました。また、宮中祭祀に関しては、これを天皇の国事行為とすべきであると指摘されました。今後の国のあるべき姿について深く学ぶことができた二日間となりました。

愛媛神青HPが4月1日よりリニューアル!



きるようになってい  
なっている  
など、盛り  
だくさんの  
内容となっ  
ています。  
どうぞご  
期待くださ  
い。



広報部より

当会では、ホームページのリニューアル作業を進めておりますが、この度、おおよその作業を終え、四月一日よりリニューアルオープンすることとなりました。

新ホームページでは、当会の最新の活動内容をお知らせするだけでなく、再発足から現在までの活動を幅広く網羅。若竹のバックナンバーもすべて閲覧できるようになっています。また、愛媛神青再発足四十周年記念冊子「愛媛の神々」で取り上げた、神社本庁と包括関係のない地域のお社が検索できるように

## 第三十二回 観月神楽の夕べ

於 川上神社(東温市)



【報告者】  
日吉神社  
欄 宜 都子野 清紀

去る九月六日(土)、東温市南方の川上神社(野口泰治宮司)において、毎年恒例の第三十二回「観月神楽の夕べ」が執り行われました。当日は夕方から大雨となり、開演が心配されましたが、開演直前には雨も止み、真新しい拝殿にて厳かに演奏が始まりました。



くずついた天気にもかかわらず多くの方にご参集いただいた

実施された演目は、悠久の舞・越殿楽・陪臚(以上三目は愛媛県神道青年会員による奉納)、神林鉦女の舞・弓の舞(以上二目は伊予神楽かんなぎ会員による奉



地元中学生による浦安の舞

納)、そして地元の舞姫さんたちによる浦安の舞の六目と楽器紹介でした。演奏中は楽の音色が涼しい夜風に乗って響き渡り、お越しいただいた方々を始め、会員一同も厳粛な気持ちで感無量になりました。来年度もこのような素晴らしい「観月神楽の夕べ」が開催されることを願って、今後一層の努力を積み重ねていきたいと思います。



悠久の舞と神林鉦女の舞には大きな拍手が送られた

## 先輩だより

昨年、八幡浜市鎮座の鹿島神社において第三十一回観月神楽が開催されました。同神楽をご覧いただいた、客神社(八幡浜市)の鎌田正一郎宮司様より当会に「観月神楽の夕べに題す」という詩吟を贈呈いただきました。

当日の情景を美しくも情緒溢れる言葉の連なりで表していただきました。ここに感謝申し上げますと共に、皆様にご紹介させていただきます。



- 語 訳
- 1 石壇～石の階段
  - 2 登攀～登る
  - 3 社福～鹿島神社
  - 4 神楽～神社で神を祭る舞楽
  - 5 鼓笙～太鼓・和楽器
  - 6 悠久～はるかで久しい
  - 7 舞筵～舞台
  - 8 邑里～日土町
  - 9 寧静～安らか
  - 10 賓人～お参りする人

|          |              |
|----------|--------------|
| 題観月神楽の夕べ | 鎌田正一郎        |
| 表題       | 観月神楽の夕べに題す   |
| 登攀石壇社祠前  | 石壇を登攀して社祠の前  |
| 神楽鼓笙除雨天  | 神楽の鼓笙雨天を除く   |
| 悠久舞筵催邑里  | 悠久舞筵邑里に催し    |
| 請求寧静賽人連  | 寧静を祈求して賽人連なる |



## 神道青年四国地区協議会 第十七回神道行法鍊成会

於 白人神社(徳島県美馬市)



【報告者】  
伊豫豆比古命神社  
権欄宜 宇都宮 宗平

去る平成二十六年九月四日、徳島県美馬市穴吹町に御鎮座する白人神社にて徳島県青年神職会担当による神道青年四国地区協議会第十七回神道行法鍊成会が開催されました。

当会からは清家会長をはじめ八名の会員が参加し、また伊豫豆比古命神社にて実習中の國學院大學の学生四名も加わり、道彦・建島章生先生、助彦・永本金二先生の指導の下執り行われました。



白人神社にて正式参拝

禊祓行事では先生の説明を受けた後禪に着替え神社近くの川へ移動しました。入水直後は冷たさを感じましたが肩まで浸かつ

た後は、身も心も洗い流される清々しさを感じました。また、その後の鎮魂行事でも静寂な神社の拝殿で心を静めながら行うことができました。

今回初めて鍊成会に参加させていただきま

したが、講義の中で「禊は一人で行うものではない」との話があり、皆が同じ気持ち、同じ動きをすることで私生活では得ることができない統一感を肌で感じる貴重な経験をえました。



清らかな川の流れて身も心も清々しく

## 三島由紀夫・森田必勝両烈士 追悼四十四周年慰霊祭

於 愛媛縣護國神社



【報告者】  
愛媛縣護國神社  
主典 御稿 裕史

去る平成二十六年十一月二十五日、愛媛縣護國神社にて、三島由紀夫・森田必勝両烈士の慰霊祭が肅行されました。愛媛県神道青年会清家貞文会長の下、祭員伶人等肅々



斎主を後藤雅彦副会長が務めた

と御霊の安鎮を祈り祭典を執り行い、神道政治連盟柳原宰 愛媛県本部長、日本会議愛媛県本部の方々、学生各位のご参列を頂きました。その後日本会議愛媛県本部 重松恵三

相談役の講話があり、貴重なお話を聞かせて頂きました。

「三島事件」から四十四年経ちました。三島由紀夫烈士が夢に見た祖国日本を思う真摯なお気持ちを、現代に生きる人々、また未来を生きる人々にも末永く伝えていかなければならないと感じました。日本人の精神、謙虚な姿勢、文化は決して失ってはならないものです。今一度現代の日本の現状を見て、「日本とは何か」を見つめ直し行動に移す時期ではないかと思えます。



「三島先生は、自衛隊が動かないことをわかって」と語る重松恵三相談役

“青年”と呼ばれる今だからこそできることがある。同志よ来たれ！

## それ行けノ二足のわらじ

兼職会員インタビュー



File.03

大元神社（八幡浜市）  
禰宜 井上 雅仁君  
職種 柑橘販売業

「柑橘販売業をされていると聞いて会社に来させていただきましたが、ひょっとして井上さん、社長さんですか!?

井上 はい。前任者から引き継ぐかたちで、旬香物産という会社の社長をさせていたただいています。地元農協の共同選果部会から委託を受けて、一般消費者向けに真穴（まあな）のみかん等を通信販売しています。「日本一の真穴のみかんを知ってもらうためのスピーカ―的な役割も担っています。」

「地域の情報発信基地でもあるわけですね。確か少し前まで市役所に勤められていましたよね。また、なぜ転職を？」

井上 はい。今年の三月まで八幡浜市役所の農林課に勤めておりました。もともと地域活性



出荷予定の商品の前で

化につながることを仕事にしたいと考えておりましたので、地元農家の方々と接する農林課の仕事はやりがいがありました。しかし、行政はどうしても動き出しに時間がかかりましたし、地域との間に距離感も感じ、「もっと地域と近いところで地元に貢献したい」とずっと考えていたのです。

また、昨年から一年間、愛媛県から派遣されて宮城県の山元町という町に復興支援に行ったのですが、そこで地元の方と接したことも、その想いをさらに強くしました。そんなとき、この会社に関わっている方から「働いてみないか」と誘われたのです。

「そついうご縁があったんですね。いきなりの転職で神職との両立は大変だと思えますが、普段のお仕事はどういったスケジュールなのですか？」

井上 当社は九時始業なので、九時前に朝礼、その後は注文対応や新規事業に向けての準備と打ち合わせに追われています。始業前は、会社近くの兼務神社で太鼓を叩きます。まあ、毎日とはいかないのですが、可能な限り一日と一日は叩くようにしています。十一日は、東日本大震災を忘れないという気持ちを込めています。

「素晴らしいですね。社長が神職であることに対する周囲の反応はどうですか？」

井上 そつですね。やはり神職ということ



牛鬼の性根入れ神事で奉仕

いがあるのです。そのお陰で、仕事を越えた協力関係が築けています。ありがたいことです。

「二足のわらじで大変なことは何ですか？」

井上 時間の確保という意味では、お祭りの時期は大変ですね。ただ、感覚的にいえば、私は二足のわらじと思ったことはありません。この会社の業績を伸ばすことは真穴地区の認知を高めることですし、地域発展に貢献することです。そして神社に奉仕するのもこの地域の発展と存続のためです。地域をよりよいものにしていくという意味では同じです。とてもやりがいがありますよ。

「なるほど、車輪の両輪のようなもので、目指すところは同じですね。お忙しい中有り難う御座いました。これからも共にがんばりましょう。」

《取材 常盤井 守道》



## 中国・四国地区が全国初の姉妹地区に



心をついに伊佐爾波神社にて正式参拝

当日は先ず、松山市に鎮座致します伊佐爾波神社にて正式参拝を行い、親睦会場のファースト

去る十二月二日、愛媛県松山市に於きまして、中国五県青年神職協議会並びに神道青年四国地区協議会合同会が開催されました。合同会は、中国五県青年神職協議会・笹井昭昌前会長と神道青年四国地区協議会・十亀博行前会長が企画して実施されたもので、第一回目を昨年五月に岡山県で行い、今回で二回目となります。



【報告者】  
愛媛県神道青年会 理事  
石鎚神社  
権欄宜 山崎 浩司

## 第二回 中国五県青年神職協議会 神道青年四国地区協議会 合同会



清家会長と高知から  
参戦の謎のサンクラ  
スマンも大活躍

調印式には、神道青年全国協議会 南坊城光興会長のご臨席を賜り、会長立会の下、中国地区の金田祐季会長と四国

ボウルへ移動し、総勢五十五名で親睦のボウリング大会(吉野杯)を開催致しました。県単位、個人単位で競い、真剣勝負しながら和気あいあいと楽しみました。その後、姉妹地区締結証調印式・合同会祝賀会の会場である国際ホテル松山へと移動致しました。調印式に先立ち、十亀前四国地区会長より説明があり、合同会の経緯や中国・四国地区の災害時支援やその連携方法について今後の活動への提言を頂きました。



南坊城会長立ち会いの下、両地区の会長が  
がっちり握手



和やかな雰囲気では進行

国地区の会員、四国地区の会員が名刺交換をし、交流を深める姿が見られました。これを契機とし、今後さらに連携と親睦を深めて参りたいと存じます。

地区の吉野慶会長により姉妹地区締結証の調印式が行われました。単位会としては奈良県・宮崎県の神道青年会の皆様と協定を結ばれていると聞き及んでおりますが、地区同士の協定は全国初となります。中国地区・四国地区が目出度く姉妹地区となり、互いに迅速な支援活動並びに支援情報の開通な調整を図る旨を確認し、連携をより強固なものへとすべく動き出したことは、大変喜ばしいことであり、全国初のモデルケースとして多くの期待が寄せられていることに身が引き締まる思いが致します。

その後の祝賀会も大いに盛り上がり、中



サイクリング王国愛媛に吉野  
会長が大盃を背負って登場!



南坊城会長も一気に飲み干す

「中国・四国は1つ」を合言葉にさらに連携を深めよう!

## 趣味人

## 第三回

〜神青会員のオフタイム〜

風伯神社(西条市)

権禰宜

花谷

空君

今回紹介する花谷空君の趣味は小説投稿。すでに数作品を発表し、新作を心待ちにするファンもいるほどの腕前だ。この趣味があったからこそ地域の方々とも良い関係が築けているという花谷君の日常を紹介する。

午後六時。社務

が終わり境内に面した自宅に戻る

## 新作小説の発表を心待ちにするファンもいる実力派

と、花谷君の小説家としての時間が始まる。ストーリーを考え、展開を決め、台詞回しを何度も書き直す。小説投稿サイトにアップしている小説の続きを練っているのだ。現在書いているのは、ファンタジー。迷宮とダンジョン(冒険)

ものの第三部目だ。

「投稿サイトには半年に一本くらい



風伯神社の拝殿の前で

のペースで定期的に投稿しています。投稿すると反応があつて、『雰囲気はでている』『心理描写に工夫が必要』など、何らかのコメントがあるのが嬉しいですね」

現在、花谷君を「お気に入り」登録してくれている読者は約一〇〇人。これまで四作品を発表したが、最も評価が高かった作品には六〇〇人が「いいね」を押してくれたという。

「中には数万人から『いいね』をもらっている人もいますから、私はお恥ずかしいレベルなのですが、評価してくれている人がいるのはモチベーションにつながります」

花谷君が小説を書くようになったのは、地元奈良で過ごした高校生時代。インターネットに掲載された小説を読むうちに、「自分でも書けるのではないかと考えたのがきっかけだ。高校卒業後は神宮研修所に進んだこともあり、忙しくて書くことができなかったが、縁あつて単身愛媛の地に来たことで再び執筆の時間を得た。花谷君曰く、小説執筆を趣味とする」とは、社務にも良い影響を与えているという。

「当社では、常駐しているのは私一人なので、総代さんたちが時々様子を見に来てくださります。お年寄りばかりですから、どうし

ても『戦中・戦後をどうやって生き抜いてきたか』といった昔の話になります。私にとっては意味深く実りのある話ばかり。小説の題材になるかもしれないし、いろいろ質問するのですが、皆さん『熱心に話をききな』と喜んでくださるのです」

そんな日々を過ごすうちに、総代さんだけでなく敬神婦人会の方達もお菓子持参で集うようになり、自然的に「女子会」が開催されるようになった。もちろんその輪の中には花谷君

がいる。そしていつの間にか、敬神婦人会の皆さんが、一日と十五日に清掃奉仕してくださるようになったのだという。

「私に題材を探す気持ちになかったら、もしかしたら右から左に聞き流していたかもしれませんが。皆さん馴れ初めの話や今の人生観まで話してくださって、私自身の人生勉強にもなっています。本当にためになります」

将来の夢は、神職と小説家の一足のわらじ。自分の小説について、地域の皆さんと賑やかに語り合う日が来るのを夢見ている。

《取材 常磐井 守道》



夜の社務所で構想を練ることも



## 新入会員紹介

三島神社 権禰宜

神岡 史郎

平成元年十月三十一日生



陸上自衛隊の普通科を除隊後、昨年より地元内子町に戻り、兼職しながら実家である三島神社でご奉仕させていただいております。

まだまだ不勉強な点も多いのですが、神青の活動にも積極的に参加して、より多くのことを吸収して参りたいと考えております。何卒よろしくお願いいたします。

## 結婚報告

村山神社 権禰宜

古川

龍太郎

さやか

平成二十六年五月二十四日、祖父の奉務する出雲大社土居教会の大前に於いて婚儀を執り行いました。

大神様に結んでいただきましたご縁に感謝し、御神前での誓詞を胸に、夫婦互いに力を合わせて明るく幸せな家庭を築いて参りたいと思います。  
まだまだ未熟者ではございますが、より一層神明奉仕につとめて参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



## 神道青年全国協議会

### 中央研修会のご案内

平成二十六年度神道青年全国協議会中央研修会が左記の日程で執り行われます。

【日程】平成二十七年三月十七日(火・先負)

十八日(水・仏滅)

【主管・担当】和歌山県神道青年会

同研修会では、映像ジャーナリストのサイモン・ワーン先生による古式伝統捕鯨に関する講演、元海将の福本出先生による、エルトゥールル号遭難事件に関する講演等が予定されています。ぜひご参加ください。  
※申し込みは事務局まで

締め切り 一月二十九日

## 平成二十七年

### 新年研修会・互礼会のご案内

愛媛県神道青年会では、左記の日程で、恒例の新年研修会・互礼会を開催いたします。テーマは、「防災対策」です。年々現実問題としての防災対策が必要性を増している今、神社、神職、愛媛神青は、どのような事前対策を行っておく必要があるのか。また、他の地域の神社で災害が遭った場合、どのような支援ができるのか。事前に準備すべきこと、起こってから対応方法について学びます。

【日程】平成二十七年一月二十九日

(木・先負)

【テーマ】「防災対策研修」

【講師】松山市役所 危機管理担当部長付

災害対策指導監 上野 恵先生

(自衛隊OB)

新年研修会・互礼会は、研修の場であるだけでなく、諸先輩方や同志たちと交流を深める絶好の機会です。新年の第一歩は当会研修会・互礼会からです。ぜひご参加ください！